特集① 令和元年度ゼミナール研修開催報告

『ふくし×イノベーション』
～福祉施設における導入可能かつ効果的な取組を学ぶ～

社会福祉法人敬寿会（山形県）　金澤　康裕 氏

ゼミナール研修へ参加したきっかけ

研修で視察したあさがお福祉会でCEO兼統括施設長を務める保岡伸聡氏は、令和元年度全国大会において、斬新な「アイデア」に基づく創意工夫を凝らした実践について紹介されており、これまでの「ふくし」ではみられなかった新たな次代を想起させる印象を受けました。これが、参加する大きなきっかけとなりました。

ゼミナール研修の意義

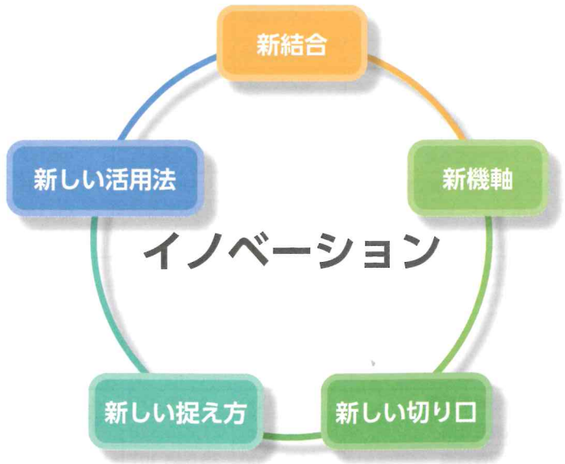
近年、少子高齢化の進行、生産年齢人口の減少などへの対策が日本の大きな課題となるなか、社会福祉法人は、2025年、2040年を見据え、とくに「サービスの質向上や業務効率化」、「顕在化・潜在化された福祉ニーズへの対応」等に取り組むことが求められています。

これまでの法人経営の型にとらわれず、次代を見据え、変化に柔軟に対応していく必要があることから、先駆的な実践を実際に視察し、そこから「イノベーション」の考え方や視点を身につけることを目的に研修が実施されました。

イノベーションとは

新しい技術の発明だけでなく、既存のモノ・仕組みなどに対して全く新しい技術や考え方を取り入れ、新たな価値を生み出して社会的に大きな変化を起こすことを指す。

①新しい財貨の生産
②新しい生産方法の導入
③新しい販売先の開拓
④新しい供給源の獲得
⑤新しい組織の実現



※イノベーションの概念や考え方について筆者が整理したもの

ゼミナール研修へ参加して学んだこと

ゼミナール研修で得た学びをいくつか、紹介します。

①地域の未来を見据えた事業展開

あさがお福祉会は、「あさがおプライド」として『「ふくし」×「クリエイト」＋「医療」』を掲げ、地域の医療・福祉ニーズをいち早く察知し、地域住民が安全安心に住み続けられる地域支援を向上心と創造力を常にもち、取り組んでいくことを掲げています。

この「あさがおプライド」に基づき、「医療」「高齢」「障がい」「児童」「地域支援」の分野に事業展開をし、さまざまな課題の解決に向けて果敢にチャレンジしています。

自法人と照らし合わせてみて、いかがでしょうか。地域の人口動態や生活・福祉課題の状況を踏まえ、地域や法人の「未来設計」を描き、事業を展開していく重要性をあらためて認識することができました。「現状把握」とともに「未来設計」を描く過程で、法人としての強みが明確となり、他法人との差別化を図るための施策を考えるきっかけにもなるのではないかと考えています。

②時代の価値観を考慮した「伝え方の工夫」

法人としての歴史を踏まえ、前例に倣い、施設・事業所を名付けたり、施設の外観や内装等を決定しているところが多いのではないでしょうか。

あさがお福祉会では、これらを慣例的に考えるのではなく、時代の変化や地域住民の価値観等を考慮し、できるだけ多くの地域住民が法人理念やサービスを理解し、そして「共感」することができる場として施設が機能するよう、名称や外観、内装等に工夫を凝らしています。

近年、人材不足が一層深刻さを増している状況下で、地域住民の共感をもたらし、愛される法人・施設づくりに取り組むことによって、認知度向上・イメージアップとなり、結果、人材確保にもつながっていることを学べました。

③ジェネラリストの育成

地域課題、福祉ニーズがさまざまな要因により多様化・複雑化しています。

あさがお福祉会では、幅広いニーズに対し、柔軟に対応できる人材の育成に向けて、多くのスタッフがさまざまな事業所・職種において業務を「兼務」しており、効果的・効率的な働き方による生産性の向上を図っています。

社会福祉法人に期待される役割も大きくなり、さらには人材不足が進む福祉業界において、多くの職員が多様な場面で活躍することのできる組織づくりが、この先、非常に重要であると学びました。

同研修については、全国青年会HPでもレポート記事を掲載しております。